



# つながり運ぶ

## きらり号



### 相手を想って

火曜日から土曜日まで、町内の移動販売をしている運転手の三島文男さん。販売は店舗で商品を選び、販売車に詰め込むことから始まります。

この日巡回する小田真木ルートでは、約10軒に伺います。「お客さんがよく買われる商品は、ほとんど把握していますよ」と三島さん。毎週の巡回で、お客さんがよく購入される商品や必要になる商品を覚えたそうです。

販売の際にも、心掛けていることがあると言います。三島さんは「お客さんにいつもの商品を渡しながら、話を聞くこと」と話します。「お客さんが、元氣にお話をしてくださることもうれしいですよ。土地勘がありませんので、たまに分らない時もありますけど、電話とかではなく、直接人と話すことで自分自身も元氣になりますから。時間が許す限りは、お話ししたいですね」と続けます。

そんな三島さんを待っているのは、お客さんだけではありません。小田地区の澤田静夫さん宅では、愛犬の幸太も三島さんを待っています。移動販売車が見えると、幸太がしっぽを振って鳴きだしました。「冬場は家の中で飼われているけど、暖かくなると外にいるから、気付くんだろうね」

と三島さん。幸太と触れ合った後、次にお客さんのところに向けて、笑顔で出発しました。

### 感謝が原動力

現在72歳の三島さんは、移動販売を始めて7年目になりますが、「75歳を一つの区切りにしたい」と話します。

ここまで続けてきた理由は何なのでしょうか。「感謝です。お客さんに対する感謝の想いがあるから続けられているんです」と三島さんは言います。「感謝」——それは三島さんが仕事をするうえで大切にしていることでもあるそうです。

「お車をお持ちの方や、近くにスーパーがある方もおられます。そんな方でも、移動販売車でお宅に伺うと買い物をしてくださる。わざわざ来てくれたからと買ってくださる方もおられます。本当に感謝しています」と三島さん。「高校卒業後から50年近く都会で生活していたこともあって、田舎の人の優しさを実感しています。そのおかげで、自分も元氣になりますから」と続けます。

三島さんに元氣をくれるのは高齢者だけではありません。三島さんは、火曜日から金曜日まで移動販売を行っています。数年前から土曜日

まちで見かける移動販売車。買物困難者のために、商品を運ぶだけではありません。今月は人と人のつながりを大切に、移動販売を取り上げます。

### 生まれたつながり

「今日もありがとうねえ」——。玄関先で、移動販売車を笑顔で迎える人がいます。真木地区に住む飯島幸子さんです。週に1度、同地区に移動販売車が巡回する日を楽しみにしています。

「どんな商品があるか見せてもらうんよ。いつも買うものはたいい決まってるんだけど」と話す飯島さん。運転もしなくなり、年をとって、外に出るのが億劫になつてからは、買い物をする機会が減つたそう。ただ、自分で商品を選んで買うことが楽しいと言います。

飯島さんが移動販売の際に楽しみにしていることがもう一つ。運転手さんとの他愛もない会話です。買物をしながら、1週間の出来事を話されます。

「いつも優しい笑顔で聞いてくれるから、ついつい話をしてしまう。ありがたいねえ」と飯島さん。買物が終わつてからも2人の会話は続きます。移動販売での時間を楽しむ飯島



笑顔で談笑する三島さんと飯島さん(手前)



つながりの印の赤い旗を掲げる飯島さん



「高校生には安くしてあげたいね」と本音も



「今日は外で待ってたね」と、近づきます

の午後、飯南高校の寮にも出向くように。親元を離れ、高校の寮で生活する高校生のためです。「高校生も小遣いで買い物をしてくれるので、高校生が買いそうな商品を選んで持っていくんです。笑顔であいさつしてくれて、うれしいです。なんといつても子どもはかわいいんです」と三島さん。この想いは、移動販

売を利用する高校生にもしっかりと伝わっています。生徒が高校を卒業する際、保護者が店舗にお礼に来たこともあるそう。「保護者さんに移動販売のことを話してくれたみたいで、私の方がうれしくなりましたよ」と三島さん。「感謝の想いがつながつているようで、続ける力になっていますよ」と話していました。



さんは、運転手さんのことを思い、3年前から始めたことがあります。家の玄関に掲げる赤い旗。「今日は移動販売車を利用する」という目印です。飯島さんは「買わない日もあるし、留守にしとる日もある。そんな時に、わざわざ車から降りてきて、声をかけてもらうのが申し訳ないけえね」と話します。赤い旗は、いつも楽しい時間をくれる運転手さんとの「つながりの印」です。